



## エイズウイルスは、なぜできるの

### エイズウイルスが、なぜできるかはわかっていない

エイズウイルスは、エイズという病気を起こす、小さな生き物です。

ウイルスは、ふつうの顕微鏡では見えないくらいの小さな生き物で、動物や植物に入っ  
て生きており、大きさは、だいたい4～10ミクロン(1ミクロンは1000分の1ミリメ  
ートル)です。

エイズウイルスについては、まだ、発見されたばかりであり、エイズという病気を起こす  
もとになっていることや、ウイルスのつくり、増え方がわかっているだけで、まだ、どのよ  
うにしてできたかについては、わかっていないのです。

### エイズという病気は、どんな病気か

エイズというのは、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)という、ウイルスの感染によって  
引き起こされる、さまざまな病気の状態をさすことです。

わたしたち人間の体には、体に入ってきた細菌やウイルス、カビ、微生物などや、がん  
細胞など、病気のもとになるものから、体を守る免疫というはたらきがそなわっています。

そのはたらきの中心になっているのは、血液にふくまれている、いろいろな種類のリン  
パ球という細胞で、指令を出しているのは、ヘルパーTリンパ球という細胞です。

ところが、エイズウイルスは、指令役のヘルパーTリンパ球に入りこんで、これをこわ  
し、自分と同じウイルスをどんどんつくって、増えていきます。

指令役のヘルパーTリンパ球がいなくなると、いろいろな種類のリンパ球がはたらけ  
なくなり、体を守る免疫というはたらきがなくなるため、エイズウイルスに感染した人は、  
いろいろな病気にかかりやすくなるのです。(監修・保志 宏)

